

平成 24 年度 第 1 回四国地方整備局事業評価監視委員会 議事録

1. 日時 : 平成 24 年 8 月 6 日 (火) 13 時 30 分～15 時 20 分
2. 場所 : 高松サンポート合同庁舎 13 階 1306・1307 会議室
3. 出席者
委員 : 矢田部委員長、伊福委員、岡部委員、高塚委員、土井委員、三木委員、渡邊委員
四国地整 : 局長、次長、次長兼総務部長、企画部長、建政部長、河川部長、道路部長、営繕部長、
用地部長、他
4. 議事内容
 - ・ 互選により委員長に矢田部委員を選出
 - ・ 再評価審議
 - 1) 重信川総合水系環境整備事業
 - 2) 鹿野川ダム改造事業
 - 3) 山鳥坂ダム建設事業
5. 審議結果
 - ・ 再評価対象事業について審議した結果、以下の結論を得た。
 - 1) 重信川総合水系環境整備事業
「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。
 - 2) 鹿野川ダム改造事業
「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。
 - 3) 山鳥坂ダム建設事業
「新たな段階に入らず、現在の段階を継続」とする事業者の判断は「妥当」である。
6. 委員からの意見・質問、それらに対する回答等（意見・質問：ゴシック、回答等：明朝）
 - ・ 再評価対象事業
 - 1) 重信川総合水系環境整備事業
 - 総便益が 3 分の 1 ぐらいに減っているが、これは回答方式の変更が主たる要因か。
→ そう考えている。前回の二段階二項選択方式と今回の多段階二項選択方式では、一般的に回答結果に 2 倍ぐらいの違いが出ると言われている。また、前回は月の支払額のみを聞いていたが、今回はそれに加えて、年間金額を示した点が大きく効いていると考えられる。
 - アンケートの説明資料の作り方によっても、便益が随分と変わってくるようなことが、以前あったので、便益が上がるような資料の作り方も考えてみてはどうか。
→ 今後はご意見を踏まえ、しっかりと資料作りをして行きたい。

○ 多段階方式は、8つの金額を示し、支払意志を聞いているが、8段階のすべてを示して答えてもらうと、中心付近に回答がいきやすい効果を生むのではないかと、むしろランダムに二段階の金額を示して回答を得る方が、そういった心性が働かないのではないかと。そういった評価方法の議論があれば教えて頂きたい。

→ 二段階と多段階の評価方法については、現在はマニュアルに多段階を用いると統一されており、それにより、2倍程度、評価に差が出ることは、これまでの結果からわかっているが、多段階を用いるということで統一している。

○ 金額（評価）に大きな差が出るということは、本当に多段階の方が真に近い値なのか。逆なのか。そのあたりの検討がなされているようなら教えて頂きたい。

→ CVMのより適切な方法を、検討して反映させていきたい。

○ 年間金額を示したことは、良いことだと思うが、8段階全部を見せるのが良いのか、ランダムに二段階で示すのが良いのか、もう少し議論が必要かと思う。

○ 20年ぐらい前までは、開始点バイアスや範囲バイアスが非常に大きいので、前回の二段階二項選択方式が、もっともバイアスの少ない方式だと言われていた。国交省は、それを何らかの理由があつて変えたと思うが、その根拠を、次回以降、教えて頂きたい。なお、年額を示すのは適切だと思う。

→ より適切な方法を、我々もしっかり勉強して、また皆さまのご意見を頂きたい。

○ 前回評価時と変えて、事業実施期間中の効果なり便益をB/Cに反映しなかった理由と、ユーザーの視点から事業期間中の便益を計上する価値があるという意見に対してはどのような考えか。

→ 既に3箇所は完成しており、多くの方に利用して頂いている。そういう意味からすると、すでに便益は出ているという指摘はもっとも。

仮に事業中の便益を含めてB/Cに換算すると、2.4が、3程度になるのではないかと試算しているが、安全側に見て、事業中の便益は、評価に反映していない。

○ ルールは分かるが、事業評価の方法は日々変えており、日々進歩している。もう1回元に戻すという考え方もあり得ると思う。現場担当者としては、答えにくい質問かもしれないが、そういったことをもう一度検討してみる価値はあると感じた。

2) 鹿野川ダム改造事業

3) 山鳥坂ダム建設事業

○ 身替り建設費について、鹿野川ダムと山鳥坂ダムは比較的近くにあるが、正常な流水の確保のために、それぞれでダムを建設する仮定としている。これを、1つのダムで確保し、費用をそれぞれの所に按分する考え方はないのか。また、他に経済的な方法があるのではないかと。

身替り建設費で便益が1を超えているため、その身替り建設費の妥当性が重要。

○ 身替り建設の条件として、場所や規模、費用に関する根拠が資料に見当たらない。2つのダムを仮想的に建設する身替り建設費をもって、便益を出しているが、それが最善の方法なのか。2つではなく1つにした方が、経済的な場合があると便益が下がるが、その可能性はないのか。

→ 身替りダムを、どこに確保するかは、それぞれの場合、地点により効率性を見て、全体として一番

安いダムの子替り建設費を検討して決めていくことになる。

今回の場合、鹿野川ダムの発電容量買い取り分を先取りして、不足分を山鳥坂で確保する関係になるため、山鳥坂地点において、それに必要な小さなダムを作る建設費を出してアロケーションしているのが実態である。

なお、事業評価上は、個別のダム事業ごとに、その目的を切り出して評価しているため、論理的には、質問の趣旨は重々理解している。

- 便益に関して、氾濫被害軽減効果と、流水の正常な維持の2つがあるとの説明だが、後者の便益の根拠資料が見当たらない。

例えば、資料4の76頁に便益と費用の流列が出ているが、この便益にはすでに、両者が足し合わされているのか。また、2つの便益がどれぐらいのウェイトになっているのか。

→ 表中では両者を足し合わせている。また、両者のB/Cは、それぞれ1を満たしている。

- 鹿野川ダムの場合は、資料4の20頁の2つの便益の金額、559億と317億がその数字になっているという理解でよい。

→ そのとおりである。

- 検討内容は、問題ないが、本日の説明だと、事業の必要性が伝わらないのではない。誰が見ても事業の必要性、便益がわかる資料を作成して頂きたい。

→ 昔からの大きな課題。引き続き、しっかりと取り組んで参りたい。

- 環境に関する便益は定量化が難しいが、そこを検討して行かないといけない。

- ピーク立て発電を止めることにより、逸失する電力があり、今後の検討により、逸失幅を最小にするよう努力されるということであるが、今の時代、エネルギーと環境の両立を考えていく必要もあって、まずそういう現実があることを、一般の方々にも上手にお知らせして頂きたいし、環境を守ることの難しさ、貴重さに関する議論を、上手に盛り上げる工夫も考えて頂きたい。

→ 引き続き考えていきたい。